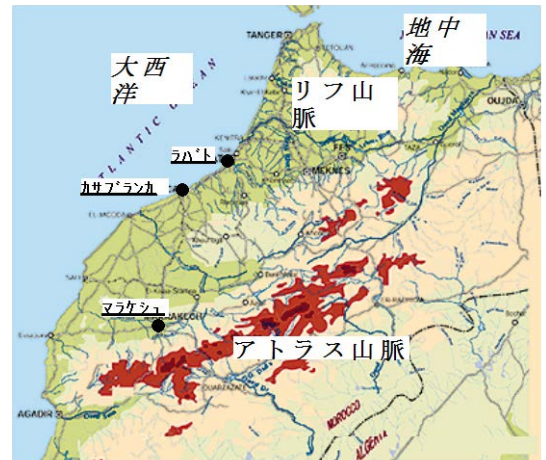


AAINews

水獲得に努力する農民（モロッコより）

今年 3 月から、JICA の開発調査でモロッコを訪問する機会を得た。モロッコと言えば映画「カサブランカ」でも知られる有名な観光立国であるが、カサブランカ自体は別に観光地でもなく、どちらかと言えば商業都市。主要な観光地は南部の世界遺産にも登録されているマラケシュが中心である。また、今年の競争で負けてはしまったが、日本・韓国への 2006 年サッカーワールドカップ開催地獲得を目標に国造りに励んでいる国でもあった。

ところで、今回の調査は全国に散らばる 25 カ所の中小規模ダム候補地から、優良案件を選定し、F/S 調査を実施するというものである。このため、調査ではモロッコの国中を走り回ることができた。最近、湾岸諸国しか行っていない私にとって、モロッコの自然条件は非常に変化に富む国として写った。ジブラルタルから地中海側で、リフ山脈近郊は比較的降雨も多く天水による麦類の栽培が見られる。一方、国の背骨とも言われるアトラス山脈の南側はサハラに続く乾燥地帯で、これまで見たこともないような大規模なオアシス農業地帯が点在する。また、アトラス山脈の北側ではかなりの灌漑地も広がっており、温暖な気候の中、麦類や多くの果物類が栽培されていた。



モロッコ地図

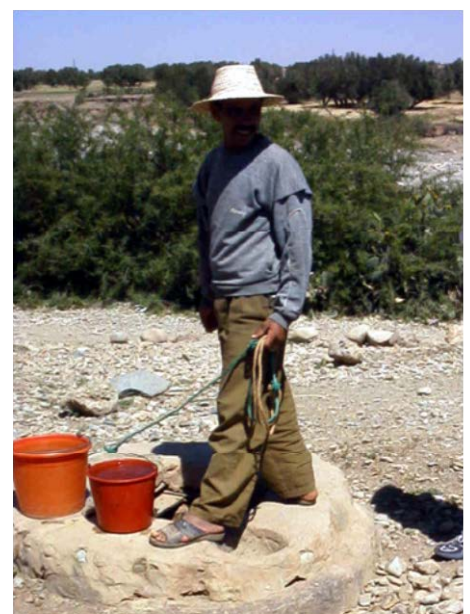
概して、モロッコの多くの農民の生活は苦しく、特に昨年、今年と続いている干ばつは深刻なものであり、国家非常事態宣言が出されている。灌漑水の得られない農地では、麦畑や豆畑で立ち枯れ状態にあり、アーモンド畑でも枯死した木をあちこちで見られた。モロッコは牧畜業も盛んであるが、干ばつにより牧草不足で多くの農民は牧草を買うために家畜を売っているという。多くの農民が家畜を売るため、買い手市場になり価格が暴落していると言う話を聞いた。

今回の調査は新規ダム開発ということで、つまり調査対象地の農地はオアシス（水不足に悩むオアシスも多い）を別にしてほとんどが灌漑の恩恵を受けていない地域である。政府による灌漑施設の充実の努力と同時に、非灌漑地域でも農民独自による水獲得に色々な創意工夫をしている。洪水時に来る水のみを確保するための溝（写真 1）、河川を石で堰き止め導水し、農地へ導く導水路、フランスが植民地時代に建設した取水堰では今も農地へ水を運んでいる。また、洪水の水を地下に貯め、生活雑用水として利用している（写真 2）。今も使われているこれらの施設はいつから動いているのかわからないが、限られた水を一滴たりとも無駄にしないという、農民の知恵と忍耐には感心させられる。

このような施設は完全な施設ではない。建設に時間はかかるが金はかからない。壊れてしまうこともあるが努力さえすれば自分らで何とか修理出来る。農民たちの力だけでも動かせるこのような施設と今後考えられる導入施設の調和をどうにかして見出せないものだろうか。現地で得た知識をいかに我々の業務に生かし、どんな形で彼らの知恵を利用できるかを考えながら進めたいものだ。（モロッコ：財津）



(写真 1) 洪水時のみ働く灌水路 - 1 -



(写真 2) 洪水時の水を貯める地下貯水槽